

【競技場と用具について】

①競技場（体育館）

壘間 12m（ダイヤモンド）

両翼 22m ※屋外の場合はフリーとする。

②用具（NPO 法人日本ティーボール協会公認品推奨）

使用球 **JTA 公認球 ケンコーティーボール1 1インチ（ポリウレタン／緑色）JTA-KT11**

バット 幼児～小学1・2年生用バット

※表面ポリウレタンバット（Sサイズ若しくは70cm）

※ケンコー幼児用ティーボールバット61cm若しくは69cm

※M・Lサイズや84cmバットは使用禁止

グラブ 使用可能（素手でもよい）

スパイクは使用禁止とする（アップシューズは可）

③バッタースサークル

本塁プレートの角を中心として、半径3mの円を描く。打者はこのサークル内で打撃を行う。

④バッティングティー

バッティングティーは、本塁プレートの後方50cm以上1m以内の間に置く。

【競技者（登録者）について】

①競技者（打撃者、守備者）は、児童7～9名と大人1名の合計8～10名とする。

②児童は1～9番のピブスを着用する。

③選手登録児童は7名以上とする。

【チーム編成について】

①年長児及び小学1、2年生の男女児とする。

【守備規定について】

①本塁手を大人とし、その他のポジションを児童が守る。

②本塁手は、打者が打撃を完了するまでは、バッタースサークルの外（ホームベース（バッティングティー）後方（打球の当たらない場所））にいないなければならない。

③全ての守備者は、打者が打撃を完了するまでダイヤモンド内に入ってはいけない。

④打者が打ったボールを守備者（大人を除く）は本塁へ送球する。本塁にいる大人がティースタンドにボールを載せる。

※ティースタンドにボールを載せることができるのは本塁手（大人）のみ。

⑤ノーバウンドでボールをキャッチした場合はアウトとし得点は入らない。

⑥走者へのタッチアウトは適用しない。

⑦本塁手（大人）が打球を処理することはできない。

⑧打者毎に守備位置変更のためのタイム延長は認めず、打者の準備が整い次第、試合を再開する。

※打者によっての大幅なシフトチェンジは認めない。

⑨走者との交錯を避けるため、本塁手はフェアゾーンに入ってボールの送球を待つことは認めない。

【打撃規定について】

①打者は審判が「プレイ」と宣告した後、ティースタンドのボールを打つ。

②三振によるアウトはなし。

③ファウルは何回打ってもアウトとしない。

④打者の打ったボールが、本塁プレートから3mの円の中にあるときはファウルとする。

⑤バントやプッシュバントは認められない。

※ティーボールは、フルスイングで遠くにボールを飛ばすことが醍醐味であり、意図的にハーフスイングやダウンスイングを行ってはいけない。

【走塁規定について】

- ①打者は正しく1塁ベース、2塁ベース、3塁ベース、本塁ベースを踏む。
- ②塁上にランナーは残らず、常にランナーなしの状態からゲーム（打撃）を行う。

【試合規定について】

- ①2チームが攻撃と守備に分かれ、攻撃側の全打者（大人を除く）が打撃を完了した時点で攻守を交代し、予定イニングを終えたとき、得点の多いチームが勝者となる。
※予定イニング終了時に同点の場合は1イニング目の得点が多いチームを勝者とする（1イニング目の得点と同じ場合は2イニング目、3イニング目により判断する）。
※すべてが同点場合は抽選を行い決定する。
- ②球審によって、「プレーボール」が宣告されると、試合は開始される。
- ③フェアボールとファウルボールは、野球やソフトボールと同じであるが、バッターズサークルフェア地域内のライン上で野手がボールに触れたり、ボールが止まったときはフェアボールとする。
- ④インフィールドフライ、タッチアップのルールは適用しない。
- ⑤試合3イニング（30分）とし、攻守交替は駆け足で行う。
- ⑥選手交代は主審に告げ、ピブスの取り替えを行い出場する。一度出場した選手の再出場は認めない。
- ⑦先攻・後攻は代表者のじゃんけんにて決める。
- ⑧メンバー表は提出しなくてよい。

【得点規定について】

- ①守備チームの本塁手（大人）がティースタンドにボールを載せて手を離れた時、打者が回った塁の数を得点とする。
※1塁…1点、2塁…2点、3塁…3点、本塁…4点
※ベースの踏み忘れがあった場合、踏み忘れた塁の数を減算する。
（例）打者がダイヤモンドを一周し本塁まで帰ってきたが、1塁ベースと3塁ベースを踏み忘れた場合、▲2点（減点）とし、得点は2点のみとする。

【審判員規定について】

- ①審判は2人制で行う。2人は球審と塁審（1塁）に分かれる。
- ②球審は、打者の正面横に立ち、3塁と本塁周辺のプレーをジャッジする。
- ③塁審は、1塁手（ファーストベースマン）の後方、1塁ファウルラインに立ち、1塁と2塁周辺のプレーをジャッジする。
- ④両審判は「フライ・ライナーのノーバウンドでのキャッチの有無、ベースの踏み忘れがないか、ティースタンドにボールを載せて手を離れた時の打者の回った塁の数」をジャッジし、球審は毎打者毎の得点をコールする。
- ⑤バットを放り投げる行為があった場合は優しく指導を行う。

【記録員規定について】

- ①チーム記録員は、球審がコールする得点をスコア記入シートに記入し、試合終了後、両チーム記録員間で得点の確認を行う。

【その他】

- ①その他のルールに関しては、日本ティーボール協会公式規則に準拠する。

※小学校低学年（小学1、2年生）及び年長児の試合であることを十分理解し、安全にティーボールの“楽しさ”を選手らが体験できるようご配慮願います。